

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071601258		
法人名	学校法人 久留米ゼミナール		
事業所名	グループホーム 国分つつじ苑		
所在地	福岡県久留米市国分町403-3 (電話) 0942-22-2018		
自己評価作成日	平成 28 年 7 月 9 日	評価結果確定日	平成 28 年 9 月 13 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

閑静な住宅地に位置し、建物は平屋作りで広々とした静かな空間である。周囲には公園もあり緑に囲まれ利用者が落ち着く環境で仲良い利用者同士が気軽に外気浴を楽しんでいる。苑内は季節を感じられる花々を常に飾り、季節の野菜の下ごしらえを利用者と共に行い、苑内においても四季を感じ過ごせる様心がけている。職員全員が入居者一人一人の目線に立ち、家族や個々の思い・希望に柔軟に対応できるよう利用者本位の支援を行い、身だしなみに気を配り、その人らしさを大切にしている。また、入所者の好みで個別対応したランチ・デザート外食を定期的に行い、2か月に1度のボランティアによる演芸会やその他の慰問も利用者の楽しみとなっている。職員の年齢も幅広く、職員同士の情報交換を密に行い、明るく働きやすい職場で職員が定着している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 28 年 7 月 29 日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は市内を走る主要道路からわずかに入りこんだ住宅街にある。同一法人の学生寮の敷地内にある平屋作りの一軒家で、すぐ側には緑多い公園もあり静かな環境にある。苑内は広々として明るく清潔感ある空間となっている。出入り口はスロープと階段両方が兼ね備えてあるなど、個々の利用者の身体能力に合わせた生活が可能となる工夫がされている。職員は利用者信頼ある関係を築けるように、利用者の日々の気持ちや状態に合わせた個別支援に取り組んでいる。更に職員の資質向上を図るため、苑内の研修は全職員が参加できるよう2回ずつ開催されている。職員間の協力体制も強く、離職も少ないことから利用者や家族と良好な関係が構築できていると推察される。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【 I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が地域との関わりを持つ理念を共通認識し理解している。 苑の運営理念を苑内数カ所に掲示したり、職員は朝礼にて唱和し常に意識付けを図っている。	事業所には独自の運営理念が掲げられており、苑内各所に掲示されている。これを毎日の朝礼で確認し、運営理念の具現化に向けて事業所全体で取り組んでいる。利用者への細やかな個別対応や地域との積極的な交流など、事業所理念をケアに反映させる取り組みがなされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	苑も町内会に加入し地域の清掃や年末の防犯警備、更には運動会や敬老会等に職員、入居者も参加して交流に努めている。 また校区中学生の職場体験学習を毎年受け入れている。	職員は地域の公園の清掃活動、防犯警備活動に参加し、利用者と共に地域の敬老会や小学校の運動会にも参加している。また、中学生の職場体験学習を受け入れ、2か月に一度のボランティアとの交流も恒例となっており、地域との良好な関係を築いている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事に参加時や職場体験学習の受け入れ時に地域の皆さんに事業所や認知症の理解を頂く時間を得て積極的に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催。自治会長、民生委員、地域包括支援センター、市職員、利用者、そのご家族の参加のもとに開催。 災害時の地域との連携や苑の活動等について意見を頂きサービス向上に反映している。	会議は2ヶ月に1回開催しており、利用者、家族、市職員、地域包括支援センター、自治会長、民生委員が参加している。会議では事業所側から利用状況や行事等の報告があり、自治会からは地域の行事の他情報提供もなされる。また最近出た参加者からのアイデアで、事業所への道案内を電柱につけた。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	久留米市主催の研修会や、運営推進会議での市職員の参加及び2ヶ月に1度の状況報告、電話にて利用者やサービスに対する相談を、その都度行ってサービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所は行政と電話での連絡の他、窓口パンフレットを持参して情報交換をし、地域の高齢者の困難ケースなどのケアの方法についても、いつでも相談できるように取り組んでいる。また、地域でグループホーム部会を設け、行政との協力関係構築に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	つつじ苑全体の職員研修に毎年取り上げており、全職員共通認識として身体拘束しないケアについて周知徹底を図っている。 玄関は夜勤帯に職員一人になる時間以外（AM7:30～PM7:00）は開放している。また、「福岡県身体拘束ゼロ宣言」を行い福岡県の登録を受けている。	日中、玄関に鍵はかかっておらず、特に外出傾向が強い利用者には、職員が付き添っている。しかし、利用者は一日一度は外気浴のため屋外に出ており、利用者の平穏が保たれている。身体拘束に対する職員の意識も高く、毎年、研修に参加する機会が全職員に確保されている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、つつじ苑全体研修や苑内勉強会で取り上げ、職員全員の意識付けを徹底している。 また、マニュアルはいつでも読める様にフロアテーブルに常時設置し日々「つつじ苑は虐待しない」を共通認識としている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	つつじ苑全体研修や苑内勉強会でパンフレットや研修資料を用いて職員に周知し利用者及びそのご家族にも説明出来る様に努めている。	権利擁護に関する制度について、契約時の他、必要に応じてパンフレット等を用いて家族に説明をしている。更に詳細については相談窓口の紹介を行うことにしている。法人内で年に一回、全職員を対象にした研修が行われており、資料も整備されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約または解約時には、その内容について十分な説明をして理解して頂いている。 契約時には事前に契約書を渡し質問等にもしっかりと答えて理解して頂き、契約の締結を実施している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の個々の訴えには職員一人一人がしっかりと傾聴し、その内容をきちんと管理者へ報告している。又、自由に電話、面会、外出でき意思表示を可能にしている。その他、意見箱の設置、苦情窓口を本部に設けて意見を広く受ける様にしている。更に運営推進会議においてもご家族の意見を表明して頂きその貴重な意見を運営に反映するように取り組んでいる。	職員は、日々の関わりの中で利用者の思いを丁寧に聞くようにしている。利用者から職員の言葉かけの方法についての要望に対しては、全職員で見直して改善し取り組んでいる。家族からも面会時に意見や要望を聞くようにしており、意見箱も設置している。出された意見は職員間で検討して対応すると共に、サービスの向上に繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から全職員が気軽に意見や提案が出来る環境作りを心掛けている。また、年に1度職員には「振り返りシート」を利用して法人代表者への意見や提案を行える場も設けている。	管理者は、カンファレンスや個人面談の他、折に触れて職員から意見を聞くようにしている。出された意見はまずは取り入れることを前提とするなど、誰もが自分の意見を言いやすいように工夫している。職員からは利用者の支援方法やレクリエーション企画についての提案などがある。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、基本給、各種手当、時給、更には自己評価に基づいた能力給の査定を行い適正な賃金向上に努めている。 労働時間やシフト変更など柔軟な対応を行い職員の負担にならない様に配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用に関しては人柄や介護への思いを重要視して性格や年齢及び経験の有無で差別していない。労働時間もほぼ規定内に収まる様にしておりシフトローテーションも職員本人の都合を聞いて休日を合わせたり有給を取ってもらうなどの配慮をしている。	職員の募集や採用にあたっては、年齢や性別にこだわらず行っている。採用後も全職員に対して、キャリアアップへの援助をしている。具体的には研修費用の援助や勤務シフトの配慮など、誰もが働きやすい職場環境を作っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	久留米市人権啓発センター発行の冊子『心・ハーモニー』を回覧をしている。地域の人権講演会を職員等に案内しているが参加出来ない。	事業所は年に一度、全職員に対する人権教育の機会を確保している。また接遇研修等においても高齢者の人権を学んでいる。人権啓発センターのパンフレットも準備し、職員の人権教育・啓発に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に加えてつつじ苑全体での研修を実施している。また、自己評価を年1回行い力量の認識によるレベルアップに取り組み、能力給として評価し職員の意識向上に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護事業者協議会のグループホーム部会に加入し交流や勉強会を行っている。平成28年度の部会活動である新人教育に適した「グループホームマニュアル」作成の為、作成委員のメンバーとして参加している。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前から関わりのある施設職員やご家族から十分なモニタリング、アセスメントを行ったり体験入所や入所前に訪問来苑して頂いての交流で信頼関係を築ける様になっている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族とゆっくり話し状況を把握した上、また、センター方式シートを一部利用した情報収集を行い、その後必要な支援、サービスを利用できるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入苑以前までに関わってきた医療機関、介護施設その他の関係諸機関からの情報提供並びに家族から十分な聞き取りを行い適切な対応が出来るよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	苑での生活において喜怒哀楽を共にしながら、学び、支えあう関係を大切に、利用者と一緒に買い物、調理の一部、洗濯物片付け、自室の整理整頓等利用者が出来ることを促し、支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には利用者の自立した生活を支援するものであることを説明し、共に支えて行く関係を築けるよう、外出や誕生会などの行事等への参加を積極的に呼び掛けをしている。また、身体的・精神的変化が生じた時は、ご家族と密に連絡を取り、状況によっては協力をお願いしている。		
22	11	○馴染みの人や場所との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から購読していた新聞や入所前の病院・美容室が継続できるよう支援している。また、関係が途切れないよう電話を利用したり、自宅の近隣の方や知人の面会もあり、変わらぬ繋がりが継続できるようにしている。	馴染みの人や場所について、利用者や家族から情報を収集している。入居後も新聞やヤクルトの配達を継続してもらい、電話や手紙を書く手伝いをする等、利用者の馴染みの関係の継続を支援している。地域の祭りで知人と会ったり、友人が会いに来ることもある。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員全員が利用者個々の性格や利用者同士の関係性の把握に努め、フロアでの席や毎日のレクリエーション・各種行事での配車、役割など配慮出来る様努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約終了後も継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、出来る支援を行い、関係を大切にしたいと思っている。介護添書の作成や電話対応・面会など行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントシートを活用して家族や関係諸機関からの情報収集に取り組んでいる。本人の趣味、性格、身体機能を考慮し思いのままに生活してもらっている。また、日々の会話や様子を通じて本人の意向をくみとれるよう記録に残している。	利用者一人ひとりの思いや希望、意向について、職員は利用者との日々の関わりの中で把握に努めている。また把握が困難な方は、家族からの情報や本人に寄り添い身振りや表情から汲み取り、関係者で本人の視点にたって話し合い、その人らしい暮らしが続けられるように取り組んでいる。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から情報収集や本人の言葉・意向を考慮し暮らし方を考えている。日用品等や趣味の馴染みのものを継続して使用して頂くよう家族とも相談している。仏壇の持ち込みも可能。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の精神的、知的、身体能力、生活歴を出来るだけ把握し、有する能力を導き出せるよう支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一日一回のミニカンファと3ヶ月に一度のアセスメントで利用者の状態変化や課題について考え、職員間で意見を出し合う。また、主治医などからも意見を頂きモニタリングを行う。家族や本人等の要望や意見を聞き、ケアプランに反映している。	介護計画は、本人を良く知る関係者で、気づきや意見やアイデアを出し合い、話し合い、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら6ヶ月に1回、また本人や家族の要望や変化に応じて臨機応変に見直しを行い、その時点でそった個別具体的な計画を作成している。見直した際は、その都度、ご家族へ報告し承諾してもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や様子、ケアの実践、その結果等に関してケース記録に具体的に記入。毎日の申し送り、申し送り簿により情報を共有し、月に1回カンファレンスで検討し、介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望・状況に応じて病院送迎、美容室送迎、訪問歯科、訪問理美容、訪問マッサージ、その他買い物支援等柔軟な支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、自治委員の支援を受け地域交流を行い、地域行事に参加している。美容室の方の送迎を利用することもある。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人・ご家族が選択し、入所以前の主治医の継続もできる。受診介助は苑が行う。協力医の定期往診、緊急時の対応が可能で看取り支援も対応する。地域の医療機関とご家族とも連携し、適切な医療を受けられる様支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。かかりつけ医との連携を密にし情報を共有し、定期受診には看護師が付き添い、また同伴家族の支援も行うなど家族の事情などに柔軟に対応している。歯科医や医療機関の受診や往診など、適切な医療を受けられるように支援している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり24時間対応している。各種研修会等にも参加し、他の医療機関等の相談助言も得られる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院できるよう適切な医療支援を得ている。退院に向けての話し合い、情報交換に参加し、又、他の医療機関とも交流に努め備えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りについての説明、理解を書面にて得ている。尚、利用者及び家族の意向を十分受け入れ、スタッフ、主治医、必要時は訪看等を利用し、情報を共有し終末期介護を行っている。施設内で可能な医療処置を確認し本人、家族の意思を尊重したチーム全体での支援を行っている。昨年度は2名。	利用開始時に事業所の重度化対応指針について事業所が対応し得る最善の支援方法の説明を行い、また状況変化にともない利用者と家族の意向を大切に関係者で繰り返し話し合い合意を図り、全員で方針を共有し、利用者と家族の気持ちに寄り添い支え、安らかな最期を迎えてもらえるように心をこめ取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での普通救命講習や上級救命講習に参加したり、勉強会のテーマに取り上げ、苑に救急救命士を招き、一般救命救急講習を実施している。また看護師による応急手当の講習も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を年2回実施、内一回は1人夜勤の夜間想定で行っている。同敷地内に学生寮があり、責任者の寮長を通じ緊急時には避難救助できるよう計画し、訓練にも参加して頂いている。また、寮一階に空室を設け、常に緊急避難所となるようにしている。非常用の水・食料・備品は事業所内の保管庫に備蓄している。	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、昼夜間を想定し避難訓練を実施している。運営推進会議で参加・協力の呼びかけを行い、自治会役員の参加が予定されている。通報体制を整備し、定期的にイメージ訓練を行い職員の意識を高め、防災対策の強化を図っている。非常用備品に関しては、非常用食品・飲料水・備品は事業所内に準備している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体研修のテーマとして取り上げ、学び、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮するよう努めている。個人情報取り扱いに関する誓約書など個人情報の管理・漏洩防止に取り組んでいる。また、利用者個々への声かけの仕方・呼び方など気付いた言動はその場で注意し改善するようにしている。	事業所のケア方針、人格の尊重とプライバシーの確保は、勉強会やミーティングのときに、職員の意識向上を図っている。排泄や入浴時のケアや日々の関わり方など、また家族や知人面会時は奥のテーブルを利用いただくなど配慮し、利用者のプライバシーを損ねない対応を行っており、職員間で気づきがあれば注意喚起を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いをよく傾聴しスタッフの都合や考えが中心にならないよう、「どちらがよいですか？」など利用者を選択してもらい、利用者本位の支援を心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活や各種行事への参加は本人の体調や意思を十分に尊重し行っている。また、起床から就寝まで一切制限することなく外気浴、散歩、買い物、その他娯楽等自由に行えるよう支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ等の整容は本人の意見を尊重し、おしゃれは利用者自身の趣味や希望に沿って個別に支援している。スカートが好まれる方にはスカート、お化粧品をして欲しいと希望があれば対応している。また、入所前の美容院に送迎している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員も一緒に食事し、個人の能力に応じ、もやしや根とりやごぼうのさがき、季節の野菜（つくし・せり・いもづる等）の下ごしらえや干し柿作りも行い、栄養士を配置してバランスのとれた食事を提供している。また、おやつ・パイキング・ホットケーキ作り・お好み焼き等行事も取り入れて利用者と共に楽しく食事をする時間を設けている。	調理専門の栄養士が、旬の新鮮な食材で栄養バランスに富んだ季節毎の行事食や本人の誕生日にケーキを作っている。誕生日の際は、家族を招待し、みんなで祝っている。家庭的な雰囲気の中で利用者は準備などを行い、自力摂取が難しい利用者には創意工夫により一人で食事が出来るように支援、利用者の喜びや自信に繋がるよう取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日3食の食事量の確認及び記録をし、入浴時には体重測定を行って管理。医師による定期的検査を行い、個々の状態、変化に応じ、好みの食べ物・飲み物を提供し、食事や水分の摂取を支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立にて歯磨きが出来る利用者には、毎食後声かけ及び誘導を行い、全介助者には歯磨き介助を行っている。口腔ケア拒否ある時はうがい剤やスポンジブラシを使用し、清潔保持に努めている。また、イソジンガーグルにてうがいをしている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、利用者一人一人の排泄パターンを把握、さりげない声かけでトイレ誘導、トイレで排泄できる様に心がけている。	排泄チェック表や利用者の様子で排泄のサインを察知し、さりげなく声掛けを行い、トイレで気持ちよく排泄できるように支援を行っている。オムツ・紙パンツ・パット類は日中・夜間など使用する時間帯で見直しを行い使用している。便秘の予防にバナナヨーグルトや水分補給や体を動かすなど気配りをしている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、バナナミルク・スキンミルクなどの水分補給、ヨーグルトの摂取など便秘予防に努めている。また、日々の食事には野菜をふんだんに採れるように工夫している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	基本は週3回を予定しているが希望によっては毎日入浴出来る体制を整えている。入浴は個浴を実施し、その時間は職員とマンツーマンで触れ合い、本心を聞ける貴重な時間であり、なるべく利用者の希望時間に入浴できるように支援している。入浴後は化粧水や乳液で保湿ケアを行っている。	好みの湯加減など利用者に合わせて、柔軟に対応している。また、入浴剤や季節に合わせてゆず湯などが楽しめるようにしている。入浴を拒む利用者には「汗をかきましたね、着替えましょう」と言葉かけたりといった対応の工夫をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息、就眠出来るよう消灯時間や就床時間を設定していない。また、室温の調節をこまめに行い、安全で快適に安眠できる環境に配慮している。巡回によって夜間不眠にならないよう、ご家族と相談し配慮している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝・昼・夕・眠前と薬箱を設定。チェックシートに服薬確認欄あり、服用漏れ、誤薬防止をしている。 各人の処方箋一覧表を作成し、常時、閲覧出来るようにしている。また状態の変化に応じ医師への相談、服薬の調整などに努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の下ごしらえ、洗濯物の取り入れやたたむ作業、ペーパー折り等各々の能力や趣味を生かせるよう支援している。又、お菓子や果物等本人の嗜好品は希望時お店へ買い物に同伴したり、スタッフが買出しを行っている。また、ヤクルトの訪問販売（1/W）を利用し、楽しみにされている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調、能力、歩行状態に応じて散歩や外気浴、ドライブをしている。買い物や季節毎の花見等を定期的実施したり、月1回のランチやデザート外食をなるべく希望に添えるよう支援している。毎年恒例となったブドウ狩りは楽しみの一つになっている。また、家族の協力を得て、お墓参りや外食に行かれたりする。	駐車場前の公園・散歩道は四季折々の風景が楽しめ、また職員の安全確認の取り組みで利用者のほどよい散歩コースになっている。週1回の程度で買い物やドライブに行き、また毎月の外食は恒例で毎回楽しみにされている。職員が出掛ける時に一緒に同乗を希望される利用者にも柔軟に対応し、家族の協力も得ながら外出支援に取り組んでいる。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される利用者のご家族と相談しお金を手持ちし、買い物の時はスタッフは付き添うが支払いは本人が支払うよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望でいつでも電話が掛けられるよう制限はしていない。電話がかけたいがかけ方が分からない等ある時は、スタッフが支援する。手紙はスタッフが付き添い一緒にポストへ投函している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑内の共用空間は広く、ゆっくり出来るスペースを設けている。行事や外食時の写真を玄関～廊下に掲示し、ご家族の面会時に一緒に楽しまれて。苑内は四季折々の花を飾り、お正月・雛飾り・七夕・クリスマス等にはそれぞれの人形や飾り物で季節感を演出し、窓にはブラインドを使用し光を配慮して居心地の良い空間作りをしている。	共有空間は明るく清潔で、室内は適切な温度に保たれている、光はブラインドで採光の調節が行われ、随所に細やかな心遣いが行き届き家庭的な雰囲気である。壁面に立体折り紙や貼り絵を飾り、趣向を添えている。利用者の動線に合わせた家具・ソファの配置は、利用者が居心地良く、落ち着いて過ごせるように工夫されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを設置し利用者個々が思い思いに自由に過ごせるようなスペースを確保している。また、ご家族の面会時に談笑の場としても利用して頂いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた馴染みの家具や雑貨を利用するように勧め、仏壇の持ち込み等、自宅の延長の雰囲気をかもしだし居心地に工夫している。本人の希望や身体状況に応じて畳やフローリング、絨毯、布団、ベッド、また、壁紙の色等を選べるようにしている。手すりの高さや長さは個々の状況・動線に応じて設置し、事故防止に努めている。	利用者の使い慣れた家具や寝具・時計・鏡・家族写真・思い出の品等を持ち込まれている。事前に職員がご自宅を訪問し、本人が安心して過ごせるように、自宅と同じ雰囲気感を醸し出している。居室の手すりの高さ・長さは本人に合わせて設え転倒防止に努めている。また季節の衣替えは利用者や家族と一緒にやっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	快適で安全に暮らせるよう、利用者個々の身体状態に応じベット、布団、Pトイレ等、環境作りに工夫している。なお、廊下、居室、共有場所はバリアフリーにして利用者の安全に配慮し、居室、トイレ、玄関、風呂場等わかりやすいように壁に明記している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない